



JTSU-E 池運



JR東日本輸送サービス労働組合
JTSU-E 池袋運輸区分会

2024年09月12日

No. 81



Aさんに対する 非道な退職勧奨は 断固として許さない！



区長による不誠実で無責任な退職勧奨によって、Aさんは10月に退職することが決まりました。多くの組合員が知っているように、Aさんは15年ほど前から家庭（親の介護）の都合で、旧新潟支社・旧長野支社への異動を希望していました。2020年にジョブローテーションの制度と同時に地方への異動を可能にした制度もできています。

しかし、今年の7月に区長から「異動の話が来ている」と言われ、8月に水道橋駅（御茶ノ水営業統括センター）への異動が通告されました。Aさんは、この間の懲懲以降も「自宅から通勤できれば何の仕事でもいい」「JR東日本で働き続けることを望んでいる」ことを再三伝えていました。そのうえで「この異動が強行されれば会社を辞めざるを得ない」と訴え続けていましたが、会社としての配慮や努力をする姿勢を一切示されず、区長からは淡々と話が進められました。「これって会社を辞めるということですか？」との問いにも、「それは本人が決めること」とし、8月26日に無情にも水道橋駅（御茶ノ水営業統括センター）への発令が出されました。この強制配置転換と自らへの扱いに理解も納得もできないまま、Aさんは9月1日に退職届を提出し無念と悲しみを胸にJR東日本を去ることとなりました。

組合差別を目的に人事権の濫用で必要性のない強制配置転換の異常な乱発、人権否定のJR版ジョブ異動によって生活・健康・働きがいや壊され被害を受けた組合員は数多く、ジョブローテーションに起因した不幸な休職・退職は（他職場も含めて）後を絶ちません。

そもそも、前回のAさん・Bさん・Cさんへの異動は何のためだったのでしょうか？安全をつかさどる指導操縦者も担当している中でです。本人を含め多くの人は『業務上やプライベートで若手との接点と関係が多いから』ターゲットにされ異動させられたと認識しています。

10月に池袋統括センターが設立されます。本来であれば業務に精通した社員が中心となり、職場のチームワーク・社員の意欲とモチベーションを上げていきながら、安全で安心できる風通しの良い「融合と連携」を実現させていく重要な時期です。しかし一部の管理者と社員からは、社員間の分断と差別を画策する幼稚で無責任な言動が横行していることが散見されます。

組合員の皆さん・そして組合未加入の良識的社員の皆さん、この『世紀の愚策』とも言われ、すでに破綻しているジョブローテーションという名の強制配置転換を会社はなぜ続けるのでしょうか？業務上の非常識な組合差別はなぜ行われているのでしょうか？一部管理者や社員はなぜ組合や組合役員を悪者のように風潮するのでしょうか？考えてみてください。それぞれ馬鹿げていますが、その先にどのような会社・職場・社員にされようとしているのかを真剣に考えていかなくてはなりません。全ての組合員のみならず、全ての社員に深く関係する問題なのです。改めて、池袋運輸区で働くすべての仲間へ訴えます。公益企業であるわが社は、様々な変化への対応の必要性を正しく認識しつつも、社員や利用者が不幸になる会社にはなりません。公益性と企業の利益を生み出す施策は、健全で心身ともに健康な社員と職場なくして実施できません。個人の利益や保身を追求する人たちに巻き込まれずに、一人一人が傍観者にならず安全で働きやすい池袋統括センター設立に向けて、本物の現場力向上・職場のチームワーク向上・社員の笑顔と安心感が実現されるように、騙されずに正義と正直がまかり通る価値観を醸成させていきましょう！

生活設計を無視した異動を強行で
退職せざるを得ない事態に！
幸福の実現は嘘！？

JR東日本で行われている“ジョブローテーション”に名を借りた「強制配置転換」は、組合差別を目的とした人事権の濫用によって社員の生活が狂わされ、実害が生じています。私たちは、これ以上不幸な仲間を出したくありません。

人を大切にしない経営姿勢が「現場力の低下」や「顧客軽視の施策」にも現れています。「安全な鉄道運行」と「安心して働ける労働環境」をつくり出すために、「ジョブローテーション異動の撤廃」を求めて声をあげ続けていきます。